



【写真1】 表土の下からあらわれた岩盤壁面(破線部内)

表土の下から...

岩のガベ あらわる

発掘調査は、調査区のほぼ半分について表土の掘削が終了しました。表土の下からは切り立った「岩の壁」があらわれつつあります。(写真1) これは、もともと小牧山の地盤である岩(チャート)を城の設計図に合わせて水平・垂直に削り出して作られた人工の壁面です。岩の壁の前には上方にあった石が転落して堆積しています。石材の転落状況を写真等で記録し、転落石を取り除くと、岩の壁はさらに下方に続いているようです。(写真2) 過去の調査でも、加工された岩盤壁面を確認していますが(写真3)、大手登城路に沿ったこの調査地点でも、大掛かりな築城工事が行われた状況が推察され、当時の小牧山城の威容がうかがわれます。



【写真2】 転落石を取り除いた後の岩盤壁面



【写真3】 2019年の発掘調査で見つかった岩盤壁面(破線部内)

「岩の壁」は過去の調査でも